

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第 4 号

会 議 等 結 果 報 告 書					
会議区分	会議	文書番号	上富子育 第 799 号		
		決裁期日	平成 30 年 3 月 12 日		
名 称	平成 29 年度 第 2 回 上富良野町子ども・子育て会議				
日 時	平成 30 年 3 月 9 日 (金) 13 : 30 ~ 15 : 00				
場 所	上富良野町保健福祉総合センター 2 階研修室				
出席者	子ども・子育て会議委員 14 人(別紙名簿のとおり) 保健福祉課長 北川、健康推進班主幹 星野 子どもセンター施設長 山田、子育て支援班 吉河、白井、黒田、杉原				
内 容	<p>1 開会 北川課長司会進行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町長あいさつ 委員改選後初めての会議にあたり、町長よりあいさつ 悪天候の中出席いただき、また日ごろの町政運営への協力に感謝する 少子化が進む中で、子育て支援は全国的な課題となっている。 子どもの貧困対策についても課題があり、アンケート調査を実施する 子育ての最前線で活躍される皆さんにご提言をお願いしたい。 2 年間よろしくをお願いしたい。 ・委員自己紹介 委員一人ずつ自己紹介 引き続き事務局職員自己紹介 ・欠席委員の報告 民生児童委員協議会 主任児童委員 高木香代子委員 ・委員長及び副委員長選任 初対面の委員も多いので、事務局案を提案する。 委員長に北海道科学大学教授の山本八千代さん 副委員長に上富良野小学校長 小山田雅春さん 【委員承認の拍手】 以降、議事については、山本委員長の到着が遅れているので、到着するまで小山田副委員長の進行を進める。 				

2 議事

【副委員長】 1 番目の議題「平成 30 年度特定教育・保育施設の利用定員について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】 資料 1 により、現在の利用定員と平成 30 年度の利用申し込み状況、わかば愛育園の利用定員見直しについて説明。

わかば愛育園は、1 号認定の利用申し込みが現在の定員（10 人）を超過しており、平成 30 年度中も定員を上回る状態が継続していることから、1 号認定の利用定員を 5 人増の 15 人とし、2・3 号認定の利用定員を 5 人減の 45 人とする見直し案。

これらの見直しにより町の保育確保量は減少するが、町全体としては、ニーズ量に対応できる状況である。

【副委員長】 質問等ないか。特に質問がなければ、会議として了承。

2 番目の議題「地域子育て支援事業の実施状況について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】 資料 2 により平成 29 年度の地域子育て支援事業の実施状況について説明。利用者支援事業については、保育士の配置や「子ども家庭総合拠点」の位置づけを行ってきた。

養育支援訪問事業及び要保護児童支援事業について、訪問や相談件数が増えており、家族支援も含め事業の充実が必要である。

病後児保育事業について、教育・保育施設での実施はしていないが、「ファミリー・サポート・センター」で対応しており、利用者も増えており、来年度から機能強化を図っていきたい。

【副委員長】 事業の経過説明について、質問・意見ないか。特に質問がなければ、会議として了承。3 番目の議題「平成 30 年度の会議（協議）予定について」事務局より説明をお願いします。また、委員長が到着されたので、これ以降の進行を山本委員長へお願いします。

【事務局】 資料 3 により平成 30 年度の会議（協議）予定について説明。

現在の計画は平成 31 年度までの計画になっている。お手元の計画書については、昨年 9 月に開催された会議により計画の中間年見直しした内容となっている。

第 2 期の計画については、平成 32 年度からとなっており、そのために来年度にアンケート調査を行い、再度ニーズを確認したうえで、事業計画を策定していく。また、現在、全国的にも課題となっている「子どもの貧困」についてもニーズ把握を行い、第 2 期の事業計画に反映させたいと考えていきたい。次に、具体的な協議内容や日程について資料 3 に基づき説明。

今年の 6 月に第 1 回目の子育て会議を開催し、子どもの貧困対策のアンケート調査の内容を協議したいと考えている。平成 28 年度に町で子どもの貧困実

態の把握で、ひとり親に対してアンケート調査を実施したが、今後予定しているアンケートではひとり親世帯以外の方も含めて実態を把握していきたいと考えている。アンケート調査の対象世帯については資料3の下部に記載されているように調査対象を予定しており、対象世帯数は約300世帯を予定している。対象の親と子にアンケート調査を実施したいと考えているので実際の調査人数は600人前後なる予定。調査内容としては、子どもの就学の状況や親の就労の状況などを調査したいと考えており、詳しい内容は6月の会議で協議したい。協議後の7月にアンケート調査の業務委託を行い、8月に調査を実施していただく予定。また、子ども子育て事業計画のアンケート調査の実施も考えており、国から調査のひな型が示されるのが9月上旬を予定しており、それ以降の11月に内容の協議を行い、12月に実施、翌年1月に調査の集計を考えている。調査の結果については平成31年3月の子ども子育て会議の際に皆様に報告したいと考えている。30年度についてはこのような流れで進めさせていただきたい。次年度以降については、アンケート調査を受けて、子ども子育て支援事業計画の策定を目的に6月から9月までに会議を開き、計画案を作成し、11月までには第2期の計画を策定したいと考えている。今年度から委員になられた皆様には協議していただく内容が多いと思うが、よろしく願いたい。事務局からは以上。

【委員長】 これについては次期計画を策定するにあたって大変重要な意義があるものかと思われる。質問等なければ会議として了承。次の議題に入る。4番「平成30年度利用者負担（保育料）の見直し」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】 資料4により平成30年度利用者負担（保育料）の見直しについて説明。道で実施している多子世帯の保育料軽減支援事業を受けて、当町においても平成30年度より保育料の見直しを考えている。内容と目的については保育所等を利用する第2子以降の3歳未満いわゆる3号認定の保育料を無償化することで子育て世代の経済的負担を軽減し、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進することを掲げている。軽減対象は町の保育施設を利用する3号認定の年齢関係なく長子から数えた2子目以降であり、かつ保育料が町の基準でいうところの5-2階層以下の世帯を対象とする。予算ベースで把握している人数は49名で対象世帯は来年度からの適用を予定。事務局からは以上。

【委員長】 安倍首相が子ども子育て施策を推進していることから、今後はさらに負担が軽減される可能性も考えられる。ほかに質問、意見等はないか。4項目すべての審議が終了。次にその他に移る。事務局から何かあるか。

【事務局】 その他として、昨年にも子ども子育て包括支援センターの概要を説明したが、今回は初めて委員になられた方もいるので改めて説明をさせていただく。子育て包括支援センターに保健師、児童福祉士、助産師も含めて健康推進班の母子健康保健包括支援センターの機能と保護者が利用できる利用者支援事業を包括し、結婚・妊娠期から子育て期に対してあらゆる事業を通して関係機関との連携を取りながらお母さんたちの心配を軽減し、子育てを充実させるために進めてきている。昨年の9月に子ども家庭総合の拠点を子育て包括支援センターに位置付けた。これは切れ目ない支援ということで、対象を妊娠期から子育て期としてきたものを少し広げ、全ての子どもとその家庭とした。今日の

新聞にも掲載されていたが、虐待の通告の件数が過去最高になっている。特に心理的な虐待の通告、子どもの面前での夫婦喧嘩も虐待になる世の中の流れになってきており、地域あるいは近所の方が気付いた時にどこに相談するのかを市町村の中で位置付ける目的も含め、包括支援センターの中に子ども家庭総合拠点という相談窓口を設け、一体として支援の対象を整えている。子育て支援としてはそこに要保護児童対策協議会という児童虐待の対応をする協議会を持っている。母子保健と一緒に妊娠期からそういった芽のある人達をことか起さないように指導していく機能が子育て支援班にあることで、妊娠期から養育支援の対象になるであろうリスクに分け、包括支援センターで一体とした対応がとれるよう窓口を設置した。30年度からは個別の相談ができるような場所の設定を子育てサロンの中にできないかなどを模索しながら、どなたの相談でも窓口を一つとし、支援の輪を広げられるよう取り組んでいる。事務局からは以上。

【委員長】 今の説明の中にもあったが、2年前に児童福祉法というものが変わり、国からのこういった要望が地方に波及している。去年これらの流れを受けて、道で専門家を招き、研修が行われた。その時の道の実績を報告したのが、千歳市と上富良野町である。上富良野町の先駆けて取り組んでいる姿勢を実感している。しかし、一番大切なのはこのような窓口に上がってこない弱い立場の親の意見を代弁していくことと考えている。会議に参加されている皆様のご協力のもと包括支援センター構想を円滑に進めていきたい。質問・意見等はないか。事務局は他にありますか。

【事務局】 先ほどの説明の補足を一つさせていただく。子ども子育て支援事業経過の改訂版を本日配布したが、本紙の34ページからが前回9月の会議で見直された内容が記載されている。また、町のホームページでも掲載されているので一読願いたい。また、これを元に第2期の計画をたてていくことを念頭においていただきたい。事務局からは以上。

【委員長】 議題ではないが、このような場を生かし、今から会議に参加していただいている保護者の皆様に町の子育ての課題や気づき等を述べていただきたい。

【北村委員】 先日、子育てネットで防災に関する講習を行い、20名ほどの保護者に参加していただいたが、子どもたちの防災の教育について、また取り組みが足りないのではないかと意見があった。私としても上富良野町にはもっと力を入れて取り組んでいただきたいと思う。

【副委員長】 上富良野小学校も全体での取り組みと学年別の段階に分けた防災に関する取り組みを行っている。十勝岳に関するフィールドワークや体験学習等を通して防災の意識を高めている

【北村委員】 防災に関する関心を保護者が持っているのであればその家庭は安心できるが、防災に興味が無い家庭であったら子ども自身が知識を身につけておく必要があると思う。実際に災害が発生した時に知識があれば子ども自身も安心して行動ができると考えている。

【副委員長】 学校でも災害を想定したマニュアルを策定し、各災害を想定した避難訓練を今年度は取り組んできた。いつ発生するかが予測できないからこそ、日頃の取り組みが大事と考えている。

- 【委員長】** 災害は日頃の取り組みが非常に重要だと言える。今後も継続して取り組んでいただきたい。次の方お願いしたい。
- 【向山委員】** 今回初めてこのような会に参加させていただいたが、私自身がPTAの役員になり、道のPTAにも参加をしているが、どこの会でも父親の参加率が著しく悪いと感じている。子どもの子育ては家庭が基準になると思われるので、母親だけでなく、父親も積極的に参加していくことが重要だと思っている。何か子どもの身に起きた時に父親が知らないではすまないとは私は考えている。本日の会に参加している皆様にも周囲に父親の参加を促していただきたい。多様な意見を取り入れることでこの会をよりよくしていきたい。
- 【委員長】** ぜひとも本日参加されている保護者の方におかれては周囲の父親の参加を促していただきたい。次の方お願いしたい。
- 【広瀬委員】** 私はアドバイザーというものをさせていただいているが、その中でも特に最近感じているのが、お母さんたちが集った時にお話したいのだなと感じている。子育てサロンに相談できるように安心して会話や相談ができる場所が上富良野町にたくさん増えてほしいと考えている。
- 【委員長】** 子育ての悩みというのはほとんどが専門家はいない悩みだと伺っている。悩みを解決するには人とつながっている感覚が大事だといわれているので、行政にもそのような場所の提供をさらにお願したい。次の方お願いしたい。
- 【加藤委員】** 私が子どもを産んだばかりの時に町の保健師や保育士が自宅まで訪問していただき、きめ細かく相談に乗っていただいたのが非常に心強かった。なかなか病院にかかれない状況でもあったので、非常に助かった。私自身の実家が遠いもので周囲に頼れる身内がいなく、子育てに関するアドバイスがいただけでなかったが、町で子育てに関する講演会を開いてくれていたので、参加させていただいたのが勉強になった。また、私はファミリーサポートを非常に頼りにしており、何かあった時に預かってくれるところがあるというのが安心できる。
- 【委員長】** 町には様々な取り組みがあるのでそれらを活用してよりよい子育てをしていただきたい。次の方お願いしたい。
- 【塚本委員】** 小学校に関してだが、つい最近、暴風雪があった際に、学校からの連絡がEメールだけだった。仕事の方は気付かないと思われるので他の連絡手段を検討していただきたい。
- 【副委員長】** 今回の暴風雪は本校にとっては有意義な練習の場になった。今回の保護者への引き渡しは、初めて作成したマニュアルに沿って実施された。保護者にメールを入れた後、保護者に連絡を入れ、メールの受信ができたのかを確認を行った。ただし、学校には電話回線が2回線しかなく、非常に時間がかかるものであったので今後改善が必要だと感じている。また、町に防災無線での連絡を依頼したが、受理されなかったため、今後、町と協議を重ね、対応していただけるよう検討したい。
- 【委員長】** 町にはぜひ検討していただきたい。次の方お願いしたい。
- 【千葉委員】** 私から見た上富良野町の印象として、高齢者には厚遇しているが、子育ての施策は不十分だと感じている。特に土、日、祝日に子どもを預けられる場所がないのは働く親に対して不利益だと言える。

【事務局】 今後検討していきたい。日、祝日の対応は、ファミリー・サポート・センターで対応している現状である。

【委員長】 ぜひとも検討していただきたい。次の方をお願いしたい。

【西間委員】 児童の虐待に関することだが、以前町内で買い物をしている時に赤子を車内に置き去りにして買い物に出かける保護者見かけた。今までにも非常に問題になっているのに未だに問題意識が足りていないと感じる。自身の行いが虐待に近いグレーな行いであることを認識してもらうためにも町で啓発を行うべきと考えている。また、そのような行為を見かけたときには町に通報を行えば対応してもらえるのだろうか。

【事務局】 車内の置き去りについては、町で啓発を検討していきたい。また、危険を感じた場合は、速やかに関係機関へ通報して頂ければ対応は可能。

【委員長】 ほかに質問、意見等がなければ会議を終了。

上富良野町の子どもたちが良い環境で育つことができるよう、みんなで考えてゆきたい。2年間皆様に頑張りたいと思う。今後ともよろしく願います。

4 閉会